

原発再稼働問題

事故原因究明なしの 見切り発車は許されない

■欧州でも批判

再稼働の条件としているストレステストはどうか

井上氏は「散々情報隠しをやってきた（東電など

電力）事業者がやり、一

緒に『やらせ』をやって

きた保安院、安全委員会

がチェックして誰が信じ

るのか」と述べ、ストレ

ステストの中身について

ただしました。

保安院は、原子力安全

委員会が求める総合的安

全評価をストレステスト

として1次と2次に分

け、1次評価によって再

稼働を判断するとしています。

井上氏の質問に班目委員長は「総合的安全評価と

しては不十分で、（ストレステストは）2次評価ま

でやっていただきたい」と答弁。井上氏は、「ヨーロッ

パでもストレステストに批判の声があがっている。

1次評価はそれすら満たしていない不十分なもの

だ」と批判しました。

保安院は2月、大飯原発（福井県）3・4号機の

1次評価結果を「妥当」と判断しました。井上氏は、

若狭湾岸は断層の巣といわれ、大飯原発付近の断層

連動の可能性が調査されていることを指摘し、こう

のべました。

井上 断層の影響を調査中なのに「妥当」と結論を出した。「再稼働先にありき」ではないか。

経産相 ストレステストをやったからそれだけで安全性が確認されるというものではない。

■「重大な答弁」

ストレステストで安全確認できていないことを認めた経産相。井上氏は、「重大な答弁だ」と指摘。

敦賀原発（福井県）でも活断層が想定の上の2倍以上の地震を起こす可能性があることが、明らかになったと述べ、活断層の過小評価は許されないと強調しました。

原発事故に対する対策はできているのか。井上氏が「地域防災計画はいつ改定されるのか」とたずねると、細野豪志原発事故担当相は「新しく法制度を発足させた上で、6カ月ほどかけて新指針をふまえた防災計画をつくっていただく」と答えました。

井上氏は「原因究明も安全確認も事故後の対策もまだこれからだ。再稼働はやめるべきだ」と主張。しかし、野田首相は「厳しくチェックすると思う」などと無責任に答え、再稼働に向け「政治判断する」と居直るだけで、再稼働の道理のなさが浮き彫りになりました。

若狭湾一帯は断層の巣



福井原発の撤退、再稼働反対などを求めた政府交渉。中央はこくた恵二、宮本岳志両衆院議員（昨年11月22日、国会内）